

# 天文学とプラネタリウム

第44回



今月のお題

## 天プラ2007→2008

■年末年始のおともに「あすとろかるた」をどうぞ。



2007年の天プラを振り返って2008年に備えます。  
さあ来年は何やろうかな？



www.tenpla.net

気がつけば2007年も押し迫り、このコラムが掲載されるのは2008年1月号。月日が経つのは早いものです。ここで天プラの2007年を振り返ってみることにしましょう。

### 2007年天プラ迷走…奔走記

まずは3月の『1週間連続サイエンスカフェ』。JR三鷹駅前のギャラリースペースを1週間借り切って開催しました。話題も天文に限らず、動物や化学などよりどりみどり。日時固定・事前申込制のサイエンスカフェが多い中で、買い物途中や仕事帰りにふらっと立ち寄れるものが実現可能かどうかの実験的企画でした。交代でやっても店番は結構大変でしたが、ふらりと覗いていただく方もいらっしゃって、常設サイエンスカフェの手ごたえをしっかりと感じました。

同じ頃、プラネタリウムを作りました。といっても段ボール製1/4ドームの屋根に穴を開けたのですが、三鷹市在住の絵本作家神沢利子さんの展覧会に、地元NPOから協力の打診を受け、

高梨直紘 (東大D3/天文学教育研究センター所属)  
平松正顕 (東大D3/国立天文台ALMA推進室所属)

絵本とも親和性の高い星空をたくさんの子どもたちに届けました。天文学とは一見関係ないコミュニティと協働できたことは、今後の発展の礎となるでしょう。

そして今年やってきた大きな波は、なんといっても『一家に1枚宇宙図』です。2007年4月の科学技術週間に文部科学省から20万枚が配布されました。天文学が解き明かしつつある宇宙の姿をできるだけ正確に、そして読む人と宇宙との繋がりが読み取れるように、というふたつの点を大事にして多くの方の協力の下に制作しました。製作の過程で理解しなおしたり新たな発見をしたりすることが続く、作る側にとっても刺激的な宇宙図でした。

2006年に始めた小学校での天文クラブ運営も続いています。Skypeを使ったハワイからの遠隔授業や国立天文台見学会、そして校舎屋上のホームズ彗星観望会。20人ほどの子どもたちと保護者の方たちは、すでに宇宙の楽しみ方を身につけていらっしゃることでしよう。



天プラが関わって実現されたアイテムの数々。トイレのお供から扇子まで、怪しい天文グッズの企画なら天プラにまかせて安心…？

グッズのバリエーションも広がりました。人気のATPを筆頭に、あすとろかるた、火星キャンドル、土星鉛にLSS扇子。まだ販売に至っていないものもありますが、できるだけ多くの方のお手元にお届けしたいと思っています。

さて、2008年。筆者二人は立場が変わるはずですが、これまでにない活動をこれからも模索していきたいと思っています。変なアイデアを思いついた方は、ぜひ一緒に実現させましょう。